

【 ICT 活用実践紹介】

【花里小 岡田の実践】

教科：総合など

活用ツール：「ZOOM」

類型：－（強いて言うなら C4 につながる実践）

内容：教員が諸事情により自宅待機になった場合

1. 【準備】補充の教師が「ZOOM を起動し。「会議室」を開設しておく。
2. 【準備】担任に「会議室アカウント番号」を伝えておき、時間が来たら入室してもらう。
3. 児童と話したり、学習の指示を出したりしてもらう。

感想：担任には急遽お願いをしたのだが、時間と ID を伝えるだけでスムーズにできた。Wi-Fi 環境にもよるが、映像や音声も十分だった。児童は担任の顔を見たり、声を聞いたりすることで、とてもうれしそうだった。ノートパソコンでの画角が限られているので、書画カメラを接続して、学級全体を映した。



【花里小 岡田の実践】

教科：図画工作科（2 年生）

活用ツール：metamoji・カメラ

類型：B4（表現・制作）

内容：たのしく うつして（紙版画）

1. 【準備】メタモジを使い、ノートを配布しておく
2. 自分が紙版画に表したい場面を考える。
3. 自分が紙版画で表したい場面の動きを自分でやってみる。
4. 表したい動きを友達に写真で撮影してもらうか、友達に動きをやってもらい、自分で撮影をする。
5. いろいろな角度で撮影をし、いいなと思うものを一枚選び、メタモジのノートに貼り付ける。

感想：自分が表したい場面の動きを行い、写真を撮ることで、腕や足の位置や、関節の角度を確認することができた。一つの場面をいろいろな角度での写真を撮ることで、自分が思い浮かべた構図と出会うこともできた。

イメージが付きやすいようにペンの機能を使ってボールを描いている。



何枚も撮影することができるので、いろいろな構図を試すことができる。



連射機能で髪の毛の浮いた感じや足の曲げた様子を確認できる。



【岡田のおもいつ記】

Zoom の実践は、補充の教師が児童をサポートできたので、メタモジの課題配布などと併用して練習することができると、休校中のオンライン学習にも活用できると感じた。予備のタブレットがあったので、2 台で接続し、全体（定点カメラ：教室全体）とグループ活動（タブレット：補充の教員が持って移動をしながら撮影する）を伝えることができた。

図画工作科の実践では、よりイメージが付きやすいように、ペンを使ってボールを描きこんだり、連射機能を使いこなしたりしている姿があった。既習の機能を抵抗なく使う児童の姿がすてきでした。